

保育内容「表現」における教材研究

—紙芝居・パネルシアター・ペープサートを作って、演じて— (IV)

井戸 裕子

(東京家政大学)

1. 研究の目的

「パネルシアター」や「紙芝居」、「ペープサート」あるいは「影絵」などの保育教材を製作する場合、それらの手法を学生がどのように理解・評価し、そして選択するのかを本研究では明らかにしたい。

2. 手続き・方法

質問紙(項目への評定と自由記述)を用いた。

<調査日> 2003年5月9日

<調査対象>

幼稚園教諭・保育士希望の大学3年生117名。

<調査内容>

保育内容「表現」の授業において、学生は、保育における表現教材の製作をする。その際、学生がどの手法を選択するか、なぜそれを選択するか、また各種教材をどのように理解、評価するかを、いくつかの質問に対する評定で、回答を求めた。質問項目の詳しい内容は、結果に示す。

3. 結果

<教材の選択について>

4種類の手法の中から学生は1つを選択する。その結果は以下の通りであった。

パネルシアター 83名

紙芝居 29名

ペープサート 5名

紙芝居 0名

<教材選択の理由について>

手法の選択理由に関して、22の項目が評定された。評定は「すごく(かなり)あてはまる」を1、「ややあてはまる」を2、「あてはまらない」を3、「全くあてはまらない」を4とした。したがって、最小値1、最大値4となる。なお、数値が低いほど、選択理由のあてはまり度が強いことになる。

質問項目は表1のとおりである。また、各質問におけるパネルシアター群・紙芝居群・ペープサート群の平均値は表2のとおりである。なお選択者数に大きな

表1 質問項目

- (a)他の人がやっていたのを見たことがある。
- (b)興味・関心がある。
- (c)子どもの頃から身近かだった。
- (d)親しみがあるから。
- (e)やった経験があるから。
- (f)やって(チャレンジして)みたくなったから。
- (g)絵を描くことが好きだから。
- (h)ストーリーを考えることが好きだから。
- (i)人前で演じることが好きだから。
- (j)努力すればできると思ったから。
- (k)簡単そうだから。
- (l)実習で使えそうだから。
- (m)将来、職場でつかえそうだから。
- (n)見た目がかわいいから。
- (o)やっていて楽しいから。
- (p)製作の時間を考えて。
- (q)リハーサル(準備・練習)の時間を考えて。
- (r)この方法でやってみたい作品があるから。
- (s)仕掛けに興味があるから。
- (t)動きに興味があるから。
- (u)子どもと一緒に作ることができるから。
- (v)子どもと一緒に遊べそうだから。

ばらつきがあるが、今回はあえてふみこんで結果を考察したい。

<手法に対する評価について>

また、各手法に対して学生がどのように評価しているかも調べた。パネルシアター、紙芝居、ペープサート、影絵に対して、イ)「子どもの注目度を予測してください。」(1、ほとんどなし 2、あまりなし 3、ややある 4、かなりある)、ロ)「あなたにとって、作りやすさはどの程度だと思いますか?」

(1、かなりやさしい 2、やややさしい 3、ややむずかしい 4、かなりむずかしい)の回答を求めた。その結果は、表3・表4のとおりである。なお、パネルシアター選択群をパ群、紙芝居選択群を紙群、ペー

プサート選択群をペ群と表記する。また、イ) 注目度については、数値が高いほど子どもの注目度を高く予測していることを示し、ロ) 作りやすさについては、数値が高いほど困難度を高く判断していることになる。

表2 各群の平均値と最大値・最小値とその差

	パネル	紙芝居	ペープ	最大値	最小値	差
(a)	1.9	1.6	1.5	1.9	1.5	0.4
(b)	1.2	1.7	2.0	2.0	1.2	0.8
(c)	3.6	1.6	3.2	3.6	1.6	2.0
(d)	2.8	1.5	2.4	2.8	1.5	1.3
(e)	3.6	2.7	3.8	3.8	2.7	1.1
(f)	1.2	1.7	1.4	1.7	1.2	0.5
(g)	2.5	2.6	3.2	3.2	2.5	0.7
(h)	2.5	2.8	2.8	2.8	2.5	0.3
(i)	2.7	3.0	2.6	3.0	2.6	0.4
(j)	1.5	1.8	1.8	1.8	1.5	0.3
(k)	3.3	2.7	3.0	3.3	2.7	0.6
(l)	1.5	1.6	1.8	1.8	1.5	0.3
(m)	1.3	1.5	1.8	1.8	1.3	0.5
(n)	1.6	2.6	1.8	2.6	1.6	1.0
(o)	1.7	2.0	2.2	2.2	1.7	0.5
(p)	3.0	2.2	2.6	3.0	2.2	0.8
(q)	3.1	2.5	3.0	3.1	2.5	0.6
(r)	2.1	2.5	2.8	2.8	2.1	0.7
(s)	1.4	3.0	2.4	3.0	1.4	1.6
(t)	1.7	2.8	1.5	2.8	1.5	1.3
(u)	2.7	2.7	2.0	2.7	2.0	0.7
(v)	1.6	2.2	1.5	2.2	1.5	0.7

表3 イ) 注目度の評価 (平均値)

	パネル	紙芝居	ペープ	影絵
パ群	3.9	3.2	3.3	3.4
紙群	3.4	3.3	3.3	3.2
ペ群	4.0	3.6	3.8	3.6

表4 ロ) 作りやすさの評価 (平均値)

	パネル	紙芝居	ペープ	影絵
パ群	3.1	2.9	2.7	3.4
紙群	3.5	2.7	2.8	3.1
ペ群	3.4	2.6	2.4	3.2

4. 考察

<教材選択の理由について>

表2をみるとパネルシアターの選択者は、まずパネルシアターそのものに興味・関心 (b) が強いようである。それは、パネルシアターの持つ仕掛け (s) に興味が強いためだろう。したがって学生の強いチャレンジ (f) 精神を引き出すようである。また、職場での利用 (m) も考えているようである。一方で、パネルシアターそのものへの経験 (e) や身近さ (c) は少ない。

紙芝居の選択者は、他群と比較して、子どもの頃からの身近さ (c) や親しみ (d) が理由となっているようである。一方で、紙芝居の持つ仕掛け (s) や見た目のかわいさ (n)、動き (t) に対する評価は低い。

ペープサートの選択者は、パネルシアター選択者と並んで、子どもと一緒に遊べること (v) を強く意識しているようだ。絵を描くことが好き (g) に対する評価が低いことが特徴的に見える。

<教材の評価について>

表3をみるとパ群は、パネルシアターが最も子どもの注目を集めると判断している。一方で、紙群とペ群は、各手法に注目度の差をほとんど見出ししていない。特にパ群はパネルシアターの注目度を強く認めているながら、ペープサートを選択している。つまりパ群は、子どもの注目度を意識して、紙群は、子どもの注目度に、関心をもたず、ペ群は、子どもの注目度をあえて意識せず、手法を選択しているのではないかと推測する。今後検討したい。

表4をみると、パ群はペープサートを、紙群は紙芝居を、ペ群はペープサートを最も作りやすいと考えている。

表3と表4を総合して考察すると、パネルシアターを選択する学生は子どもが注目することに価値を置いているが、紙芝居とペープサートを選択する学生は自身の作りやすさに価値を見出しているようだ。

<まとめ>

パネルシアターの選択者が最も多かったが、これは保育の効果や制作上の面白さが高く評価されたためであるといえよう。

紙芝居はパネルシアターに比べるとその選択者は3分の1ほどであった。そしてその傾向はどちらかといえば、紙芝居という手法に対する身近さが主動機となっているようで、やや安全な(非冒険的)な選択傾向とみられる。

ペープサートはその選択者が5名と少数であったため、今回の考察を活かして、今後の研究のつなげたい。